

日蓮門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成17年1月1日
第31号

京門連「日蓮大聖人お會式万燈行列」 三十三年ぶり復活

京都日蓮聖人門下連合会理事長

矢放眞文



運聖人門下本山会の当番本山が会場となり法要を厳修し、合わせて總會を開催して全てにおける決議がなされます。

「開宗会」は比叡山の定光院での法味動上を主たる目的とし、合せて延暦寺大講堂に安置されています日蓮大聖人の御尊像の御前にて法味動上の後、京門連会員から選出された講師による講演会を行なっております。

「夏季大学」は法華宗本門流大本山本能寺を会場として、三部構成にて、第一部は降誕会同様、当番本山の貫首親下を講師としてお迎えし御講義を頂戴します。第二部は、宗門大学より講師を派遣して頂き、専門分野の講義を聴講します。第三部は、一般大学等より講師依頼をして文化講座的な講義内容としております。

●活発な京門連の活動と組織

京都日蓮聖人門下連合会（京門連）の組織と運営から紹介させていただきます。京門連は、京都市内における「日蓮宗・法華宗本門流・顕本法華宗・法華宗陣門流・日蓮本宗・法華宗真門流・本門法華宗」の百八十ヶ寺院（十五本山を含む）にて連合会を組織し、日蓮宗側と法華宗側とに大別して隔年にて当番を担当し、「降誕会・開宗会・夏季大学・お會式」の四大行事及び総会（年一回）・理事会（年六回）を年間事業として、それぞれの年会費をもって運営しております。

協賛として、日蓮宗側（大本山妙顕寺・大本山本願寺・本山頂妙寺・本山本満寺・本山妙覚寺・本山本法寺・本山立本寺・本山妙伝寺）、法華宗側（法華宗本門流大本山本能寺・顕本法華宗本山妙満寺・法華宗陣門流本山本願寺・日蓮本宗本山要法寺・法華宗真門流本山本隆寺・本門法華宗大本山妙蓮寺・顕本法華宗本山寂光寺）の十五本山で組織する京都日蓮聖人門下本山会があり、「主伴会」と称し、年二回の親睦会を開催しております。

また、日蓮宗側は「八山会」、法華宗側は「法華門流懇話会」をそれぞれに開催しております。

●門下共通の研鑽の場として

「降誕会」は二月十六日に京都日蓮聖人門下本山会が会場となり法要を厳修し、合わせて總會を開催して全てにおける決議がなされます。

●三十三年ぶりの復活に向けて

「お會式」京門連設立当初は、円山音堂にて結集お會式法要を厳修後、祇園の石段より京都繁華街の目抜き通りである四条通り―河原町通り―御池通りを経て、本能寺にて散会となる「日蓮大聖人お會式万燈行列」が何度となく奉行されておりましたが、諸事情により昭和四十六年を最後に中止せざるに至り以後、当番本山を会場としてご報恩お會式法要を奉修しております。いずれの諸行事も毎年二百ないし三百名の参加者があり、本年はそれぞれに第四十回を迎えますこと、京門連に関わる先師・先哲の先輩上人方の賜であることを念頭に法華経弘通、お題目の広宣流布のために尽力をつくしております。

この度の「日蓮大聖人お會式万燈行列」三十三年ぶり復活の機運は、先の立教開宗七百五十周年の吉辰より、京門連の理事会等で語られるようになり、本年まさにその好機に恵まれ、約千人による万燈提灯行列を前例に従い無事遂行いたしました。当日の宣言文を記載し、筆を止めさせていただきます。

●宣言文●

南無久遠実成・大恩教主・釈迦牟尼世尊のみ教えは三千年を経た今日もなお、生きとし生ける全世界の人々のともしびとなりて燦然とかがやいております。その釈迦牟尼世尊の教えは、現実世界に闘争と罪惡のすべてが消え果た、絶対平和の世界をうちたてる、妙法蓮華に帰することでありませぬ。

日蓮大聖人は釈尊の最後の、み教えである法華経にこそ、唯一の真実と救いがあることを示され、自らその教えの、実践者として、大難四ヶ度・小難数知れず、死生をふみこえ、法華経のやすらかな仏国土たらしめん、一天四海・皆帰妙法を祈られた聖者であります。七百二十一年前の弘安五年十月十三日、六十一歳の涙と慈悲の生涯を閉じられました。日蓮大聖人を偲びまいらすことは、正法を建立し、一閻浮提の人々を安穩にすること、すなわち立正安国の祈りである「南無妙法蓮華経」を心を一つにして、唱えることでもあります。

現代は豊かな社会といわれていますが、心が豊かであるとはいえないでしょう。地球規模の自然破壊が進み、地震・台風等の災害、無惨な犯罪、子供への虐待など、悲惨な事件ばかりです。またいま同じ時に地球のどこかでは、戦争で命を失う人、飢えと病気に苦しむ数多くの人々があります。

大聖人は、「国土の盛衰はそこに住む人間の精神の反映である」と申されております。いま将にこのお言葉を真摯な態度で受け止め、私たちが今一度、正しい信仰を持つことをお誓いし、法華経の心であり所詮である「南無妙法蓮華経」の七文字を旗印に、本日京都日蓮聖人門下連合会・京都日蓮聖人門下本山会主催「日蓮大聖人お會式・万燈行列」の意義とすることをここに宣言いたします。

平成十六年十月二日

京都日蓮聖人門下連合会理事長 矢放眞文

●從地涌出

▼平成十七年乙酉の歳を迎えた。そこで西について話してみよう。▼ちよつとその前に今年二月九日が旧暦の元旦だが今は新暦が主流だ。中国から日本に伝えられて一四〇〇年。旧暦は繊細な季節の変化と寄り添いながら、徐々に姿形を調え、日本仕様のカレンダーとして定着した。明治六年に西洋歴が採用されてからも、旧暦は、農業・漁業・伝統芸の世界では、必要不可欠な自然暦として継承されている。勿論、宗教・仏教の世界においてもそうに違いない。自然とともに生きる知恵に満ち、七十二もの季節をこまやかに味わい暮らすことができる旧暦は、まさにエコカレンダー。「日本人はみな昔から知っていたはず。月の力、太陽の動き、眼に見えない風のそよぎを感じ、暮らしに役立てることを……」（旧暦と暮らし）松村賢二著。旧暦愛好者の筆者としてはザンネン！日本人の暮らしの知恵を忘れさせた、心のかよわぬ「西洋暦」斬り！



書・石橋湛山

▼さて話は本題にもどして、西の話を。「おとりさま」ってご存知？ 東京・浅草において毎年十一月の酉の日に行われる「西の市」。その舞台が、日蓮聖人門下の鷺在山長国寺（法華宗本門流）。門前に「鷺山見大菩薩」の立て札があり、浅草田圃「西の寺」と称されている。寺伝によると「文永二年（一二六六）日蓮大聖人が上総国鷺巢（千葉県茂原市）の小早川家（大本山鷺山寺）に滞留の折、国家平穩の祈願をこめたところ、十一月の酉の日に妙見さまが鷺に乗って示現したのがはじまり」という。この「鷺山見大菩薩」は（鷺大明神へおとりさま）とも呼ばれ、たいへん靈験があり、江戸に出開帳したところ、市がたつほどの信仰を集めてこのお寺が出来たという。となりの鷺神社は、明治政府の神仏分離令によりお寺と神社に分割されてきたもので、「鷺山見大菩薩」は今尚、長国寺に安置されている。（丈）

ポスト750 宗門布教の方向性 第8回 日蓮本宗

意識改革は「渴仰」と「恋慕」から

日蓮本宗 宗務総長
桐生信行



新しい形式での 慶讃大法要を奉修

地震・台風などの災害や残酷な犯罪などが多発し、ますます混乱を深めている昨今であります。現代において布教の方向性はいかにあるべきかが、それぞれの日蓮聖人門下各派各派にとって大きな課題となっており、それぞれが、平成十四年、平成十五年、平成十六年、平成十七年に立教開宗七百五十年という聖辰を迎えました。日蓮本宗における慶讃の弘宣活動と法要を紹介し、さらには宗門の展望を述べさせていただきます。

立教開宗七五〇年の 記念事業

平成十一年から立教開宗七五〇年記念事業委員会（東山豊次委員長）を開催し、委員会において討議を重ね、七百五十年記念事業として「宝蔵」の建設、「本門宗綱要」の出版、檀信徒用「仏事の心得」の編集出版などの計画方針を決定しました。

「宝蔵」は本山所蔵の国指定重要文化財と、先に解体した「宝蔵」に収蔵されていた各種霊寶等並びに、「経蔵」に収蔵されていた各種經典、版本・古文書等を安全に一括収蔵し、永く後世に伝える施設として建設しました。

「本門宗綱要」は、昭和二年に出版が計画され、草案原稿が作成されましたが、諸般の事情により未刊行であったので、その草案原稿を活字版組みにし、布教の一助とする為に出版した。

「仏事の心得」は、全国檀信徒に本山要法寺の伝統的な仏事作法を在家版として再構成し出版した。

平成十三年には立教開宗七百五〇年慶讃大法要委員会（長崎秀要委員長）を設置して、大法要に向けての本格的準備に着手しました。立教開宗七百五〇年を真に意義あらしめるために、日蓮の弟子檀越として祖山要法寺に一大結集し、末法救済の色説宣布、次代の礎を築くことを目標として掲げました。

法要委員会では、立教開宗七百五〇年を意義あるものとするために大法要の聖日には檀信徒を本山に終結することを定め、清澄に赴いて採火することや建設完成予定の宝蔵での重文「経宮」宝物展覧などの事業を実施した。

四月二十八日の慶讃大法要においては、新世紀劈頭と立教開宗の慶瑞にふさわしい清新な法要スタイルを構成し、青壮年教師と若年信徒多数を主体として、従来の定形法要を脱却し、唱導隊・現代音楽の演奏・転法輪の多彩なプログラムを進行し、一千名を超える参詣檀信徒に新鮮な驚きと感動を共有して、本宗教団の将来する展望に明るい燭光を得たと自負しております。（総括報告書より抜粋）

御降誕八百年に向けて

本宗は王城御開山日尊上人開闢會七百年慶讃大法要委員会を平成十六



本山要法寺（本堂・開山堂（左））

年六月二十四日に発足し、平成二十四年七月の法要奉修にむけて事業内容の詳細を検討中です。

宗門の目指すところは日蓮門下の僧俗をはじめ一般参拝者をも迎える前提で、長期計画し日蓮門下との親交を重ね、僧俗ともに広くは仏教界全体と門下の共存共栄の姿を内外に示す事を目標としています。

現状を観察すると法縁・血縁に依る寺院護持も困難な状況にあります。これを打破するためには早急な意識改革が求められています。

現在の社会情勢から寺院に求められている本来の役割を再確認するならば、寺院は常に地域文化活動の拠点であり、最新の情報発信源でありました。また、大衆の交流の場として公共性の強い面を維持できましたが、近年は寺院の世襲制と一般家庭の核家族化等の影響によって多種多様な形態が生じています。

この貴重な経験に基づき優劣の争いから生じた分裂の歴史を個性の尊重へと意識改革を進め元来一体の姿を

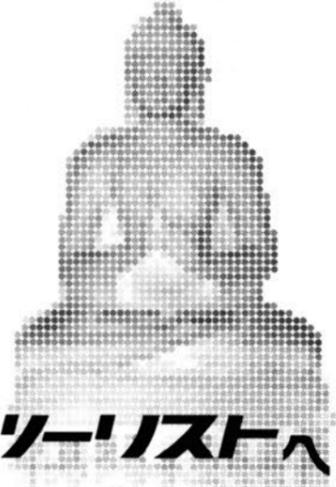
顕現する事こそ地湧の菩薩行と考えます。

御降誕會は渴仰と恋慕の心で

妙法蓮華經如来寿量品第十六に曰く、「故不為現身、令其生渴仰、因其心恋慕、乃出為說法、神通力如是（故に為に身を現せずして其れをして渴仰を生ぜしむ、其の心恋慕するに因つて乃ち出て為に法を説く、神通力是の如し）」とあるように、門下、弟子檀那一同の集団意識が渴仰と恋慕の心を持った時に其の処に日蓮聖人が御降誕されて法が説かれる。このように御降誕の意義を捉えて、我慢偏執の心を改め「渴仰」と「恋慕」の信仰を日々積重ねることが、御降誕會の実の報恩行であると確信して来たる平成三十二年を迎える事を誓います。

釈尊のふるさと

インド仏蹟めぐりは



近畿日本「ツーリスト」へ

西日本地区

京都支店 〒604-8005 京都市中京区河原町三条
Tel 075-221-7631 Fax 075-223-5192

東日本地区

東京中央支店 〒101-0052 東京都中央区八丁堀4-8-2
Tel 03-5543-2951 Fax 03-5543-2961

恭賀新春

平成十七年乙酉



日蓮聖人門下連合会

平成十七年一月現在

日蓮宗宗務院

管長 藤井 日光 財務部長 渡辺 照敏
 宗務総長 岩間 湛正 宗務総長室長 遠藤 文祥
 伝道局長 栗原 正震 現代宗教研究所長 田澤 元泰
 総務局長 中條 令紹 参 与 堀江 宏正
 伝道部長 田端 義宏 参 与 浅井 玄裕
 教務部長 中里 観正 日蓮宗新聞社社長 長 亮行
 総務部長 垣本 孝精

〒146-8544 東京都大田区池上一-132-115
 電話 〇三(三七五)七-八一
 FAX 〇三(三七五)七-一八六

法華宗(本門流)宗務院

管長 川口 日唱
 宗務総長 渡辺 俊岳
 財務部長 佐藤 義賢
 教学部長 佐々木 明乘
 教化部長 高村 法顕
 庶務部長 有田 秀達

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二-19-1
 電話 〇三(五六一)四三〇五五代
 FAX 〇三(五六一)四三〇五六

顕本法華宗宗務院

管長 中山 日咲
 宗務総長 中村 通義
 宗務次長 島田 幸晴
 財務部長 藤崎 行学
 布教部長 早川 義正
 教務部長 桑村 信慶
 社会部長 多門 顕正
 庶務部長 津村 乘信

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一
 電話 〇七五(七九二)七-七一
 FAX 〇七五(七九二)七-二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管長 鈴木 日艸
 宗務総長 土屋 善敬
 総務部長 佐古 弘文
 教学部長 門谷 東生
 財務部長 八木 恵岳
 教化部長 佐古 大弦
 宗務参事 大島 崇皐

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-135-16
 電話 〇三(三九一)八七二九〇
 FAX 〇三(三九一)八七二九〇

本門佛立宗宗務本庁

講 有 小山 日誠
 講 尊 梶本 日裔
 講 尊 野崎 日丞
 宗務総長 山内 日開
 宗務副総長 石田 日奥
 宗務副総長 嶋田 幾雄

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上冬東整町一〇番地
 電話 〇七五(四六一)一一六六代
 FAX 〇七五(四六一)五五九九

日蓮本宗宗務院

管長 嘉儀 日有
 宗務総長 桐生 信行
 総務部長 岩崎 広義
 財務部長 渡邊 光顕
 教務部長 西尾 弘道

〒606-8362 京都市左京区新高倉通橋上ル法皇町四四八
 電話 〇七五(七七二)三三三九〇
 FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管長 上川 日乾
 宗務総長 竹内 正道
 総務部長 上田 浩岳
 教学部長 辻本 寛孝
 教化部長 木村 完祥
 財務部長 堀村 智泰
 社会部長 井上 隆啓
 主事 本多 信正
 主事 足立 真正
 主事 山口 英泰

〒602-8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
 電話 〇七五(四四二)五七六二
 FAX 〇七五(四四二)五七六六

本門法華宗宗務院

管長 高邊 日援
 宗務総長 信隆 日系
 宗務部長 増田 隆雄
 総務部長 吉村 頼彦
 財務部長 土畑 信教
 教務部長 音羽 隆全
 庶務部長 真鍋 弘喜
 門連常任理事 山下 通雄

〒602-8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東大寺町八七五
 妙蓮寺内
 電話 〇七五(四五二)三五二七
 FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賛主 田中 暉丘
 理事長 古知 毅彦
 門連常任理事 石見 良教
 門連理事 井上 寶護
 門連理事 相澤 宏明

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一-19-18
 電話 〇三(三六五)七-二二〇
 FAX 〇三(三六五)九-九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会長 上川 日乾
 副会長 久村 日鑿
 理事長 矢放 眞文
 副理事長 杉若 恵隆

京門連事務局
 〒602-8447 京都府京都市上京区紋屋町三三〇
 法華宗真門流総本山本隆寺内
 電話 〇七五(四四二)五七六二
 FAX 〇七五(四四二)五七六六

日本山妙法寺大僧伽

主座 塙 行幸
 長老 石山 定光
 長老 吉田 行典
 長老 酒井 天信
 長老 今井 行康
 長老 二宮 和嘉
 長老 池田 行朗

日本山妙法寺大僧伽事務局
 〒206-0812 東京都稲城市矢野口三五七-1番地
 電話 〇四二(三七八)三三九五
 FAX 〇四二(三七九)〇七四四



恭賀新春

平成十七年乙酉

日蓮聖人門下連合会

(平成17年1月現在)

<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一丁目二〇 電話 〇二五六(三三三)〇〇〇八</p> <p>貴首 鈴木日 執事 栗田孝之 執事 平井正 執事 鈴木正 執事 高橋正 執事 荒川俊二 執事 西山公孝 執事 山聡達</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九二)七二七一 FAX 〇七五(七九二)七二六七</p> <p>貴首 中山日 執事 島田幸晴 執事 山本晃道 執事 中村英司 執事 湯原正純 執事 補算義就</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 8576 東京都大田区池上一丁目一 電話 〇三(三七五)二二三三 FAX 〇三(三七五)三三五〇</p> <p>貴首 酒井日慈 執事 早水日秀 役員一同</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(二二)一〇一一 FAX 〇五五六(二二)一〇九四</p> <p>法主 藤井日光 総務 井上瑞雄</p>
<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒606 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町一〇五 電話 〇七五(四六三)四六二〇代 FAX 〇七五(四六三)四六五一</p> <p>住職 小向日誠 執事 田中清希 執事 伊藤隆之 事務局長</p>	<p>多寶富士山 日蓮宗 本山要法寺</p> <p>〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四八 電話 〇七五(七七二)三三九〇 FAX 〇七五(七七二)五九一四</p> <p>貴首 嘉儀日有 執事 丹治日遠 執事 桐生信行 執事 岩崎広義 執事 渡邊光頭 執事 西尾弘道</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五二)三五二七 FAX 〇七五(四五二)三五九七</p> <p>貴首 高邊日援 執事 石崎光教 役員一同</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 8447 京都市上京区智恵院通り五辻上ル紋屋町 電話 〇七五(四四二)五七六二 FAX 〇七五(四四二)五六六六</p> <p>貴主 上川日乾 執事 矢多信正 執事 本立真正 執事 足立真正 書記 笹木研吾 書記 永岡悠希</p>
<p>日興上人御廟所 日蓮宗大本山 富士山重須本門寺</p> <p>〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五九)〇三〇三</p> <p>貴首 本間日諄 参 与 井出教道 参 与 坪井親雄 参 与 井野上正文</p>	<p>日蓮宗本山 比企谷 妙本寺</p> <p>〒248 0007 鎌倉市大町一丁目一五 電話 〇四六七(二二)〇七七七 FAX 〇四六七(二二)六九六七</p> <p>貴首 加藤日暉 執事 大埜稔申 執事 立野正泰 山務役員一同</p>	<p>京都八本山会</p> <p>大本山 本圓寺 貴首 久村諦道 大本山 妙顯寺 貴首 南條孝仁 大本山 頂妙寺 貴首 永田恵遠 大本山 妙覺寺 貴首 頂岳龍乘 大本山 本満寺 貴首 伊丹栄彰 大本山 本法寺 貴首 大塚泰詮 大本山 立本寺 貴首 上田尚正 本山 妙傳寺 貴首 野々垣泰典</p>	<p>日蓮聖人出家得度《報恩》の靈跡 大本山 清澄寺</p> <p>〒209 5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄三三二一 電話 〇四七〇(九四)〇五二五 FAX 〇四七〇(九四)〇五二七</p> <p>別当 岡崎日泰 団参には是非、研修会館をご利用ください。 一名八千円、二百名様まで可。</p>
<p>日蓮門下お題目初唱之靈場 日蓮宗東身延本山 藻原寺</p> <p>〒297 0026 千葉県茂原市茂原一丁目一 電話 〇四七五(二二)三二五三 FAX 〇四七五(二二)一一七三</p> <p>貴首 持田日勇 執事 増田寶泉 役員一同</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七二)〇五六二 FAX 〇七五(七五二)一〇〇四</p> <p>貴首 永田恵遠 参 与 山田信行 同 安藤隆司 同 伊藤隆司 執事 藤井照孝 執事 二之部陽雄 同 川合陽雄</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 0013 東京都杉並区堀之内三丁目八八 電話 〇三(三三三)六二四一 FAX 〇三(三三三)五〇〇七</p> <p>山主 嶋田日新</p>	<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 0813 千葉県市川市中山二丁目一〇一 電話 〇四七(三三四)三四三三 FAX 〇四七(三三四)一七九六</p> <p>貴首 新井日湛 執事 渡辺貞観 参 与 田代浩敬 同 喜多村教雅 同 渡辺行俊 同 植田観樹</p>

門連時報

全門連京都理事会

懇親会、法華宗真門流

総本山本隆寺で開催

平成十六年十一月二十五日(木)、法華宗真門流総本山本隆寺(上川日乾貫首)に於いて「全門連京都理事会・懇親会」が開催され、各本山貫首をはじめ門連役員あわせて約四百名が参加した。

正午に集合し、昼食後、午後一時より上川日乾貫首御導師のもと、法味を言上。宗務庁前にて記念撮影の後、午後二時より研修室にて上川日乾貫首による「本隆寺の沿革」について大変貴重なお話を拝聴した。

引き続き、午後二時半より「常任理事会」が開催された後、午後三時十五分より「京都理事会」が開催された。参加者各自の自己紹介の後、岩間湛正全門連理事長が座長となり、議題について議事を進行。全門連上半期事業報告、京都門下連合会の活動報告、大阪門下懇話会の行事並びに活動報告があった。また、大日蓮展の全記録をDVDにして保存することが決定され、その他にも降誕八〇〇年慶讃事業に向けての活発な議論が展開された。

会議終了後、懇親会の席をセンターホテル「瑞鳳の間」へと移し、京料理を堪能した。

今回種々お世話いただきました京門連の各聖、本隆寺の皆様には厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも門下発展の為に御尽力賜り度く重ねてお願い申し上げます。



日蓮聖人門下連合会 京都理事会 平成16年11月25日 於 法華宗真門流 総本山 本隆寺

『日蓮聖人の教義』 復刊される

国柱会創業百二十年記念事業の一環として、昨年十一月、田中智学著『日蓮聖人の教義』が復刊された。本書は明治四十三年に初版が発行されるや、全編に横溢する信仰の情熱、分かりやすい簡潔平易な解説、百科辞典的な豊富な資料等によって宗門内外の注目を集め、じつに二十五版をかさねるベストセラーとなった。昭和十五年以降絶版となっていたが、今回新編によって復刊したものである。

「その平易な内容は、今日でも十分な説得力を持って人々に受け入れられ、人生の指針となること疑いありません」

(藤井日光院下)

「本化の教学の真髄を開法隨喜し略解言趣せしめる名著良書として、

私は何度か精読し拙著に引用もし、その学恩を思い知るものです」

(伊藤瑞樹立正大学教授)

「初版から数えて九十七年目にして、不滅の名著がふたたび世に送られると聞いて、まことに慶賀に堪えません」

(渡邊寶陽立正大学元学長)

などの推薦の辞が寄せられ、予約の段階から好調な売れ行きを示している。宗門人はもちろん、広く一般の人々にもお勧めしたい。(石見良教)

『日蓮聖人の教義』A5判七三六頁 定価八千四百円(税込)

発売元・東京都江戸川区一之江 六十九十八真世界社
☎〇三三三六五七一一
FAX〇三三三六五九八〇



三十三年ぶりに復活!! 日蓮大聖人 お會式万燈行列

京門連主催の「日蓮聖人お會式万燈行列」が三十三年ぶりに平成十六年十月二日開催された。参加した檀信徒は約六百名。京都東山にある円山音楽堂で法要が営まれた後、一人一人に手渡された提灯に火をともし、週末で賑わう京都一の繁華街、祇園・四条河原町を練り歩いた。行列の先頭には、京都明德高校吹奏楽部のプラスバンド隊、続いて纏、日蓮聖人尊像、行脚隊、そして、人力車に乗った門下連合会の各本山貫首、そして集まった檀信徒が後に続いた。約二時間をかけて本能寺に到着。参加者は口々に「是非来年も続けて開催してほしい。また必ず参加させてもらいます」と語った。(理事長報告は第一面に掲載) (三木天道)

年月日	氏名	宗派	門連役職
平成一六・六・二八	杉本日慈師	本門法華宗	顧問
平成一六・六・二八	高邊日援師	本門法華宗	顧問
平成一六・六・二八	高邊日援師	本門法華宗	理事
平成一六・七・六	信隆日系師	本門佛立宗	顧問
平成一六・七・六	野崎日承師	本門佛立宗	顧問
平成一六・七・六	野間正明師	日蓮本宗	常任理事
平成一六・七・六	桐生信行師	日蓮本宗	常任理事
平成一六・一一・二二	大塚日正師	法華宗本門流	顧問
平成一六・一一・二三	川口日唱師	法華宗本門流	顧問

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…

宗門唯一の 日蓮宗新聞

伝道機関紙 毎月1日・10日・20日
年間購読料3,600円(送料込)

教誌



一冊350円(送料別)
年間購読料1,700円(送料込)

○年4回発行
お正月(1月号)/春季彼岸(3月号)
お盆(7月号)/お彼岸・お会式(9月号)

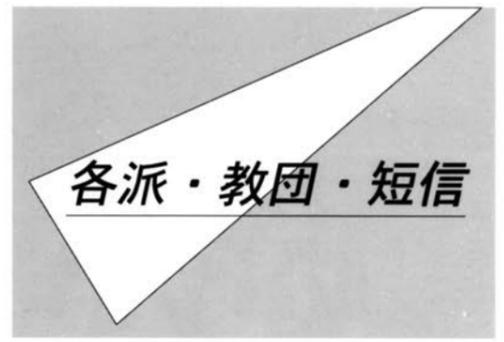
詳しくは…

(株)日蓮宗新聞社

〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3
TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028
nichiren@t3.rim.or.jp
http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/
(業務時間 午前9時30分～午後5時)

日蓮宗新聞社のお店

〒146-0082 東京都大田区池上4-18-1
TEL&FAX.03-3755-6462
(業務時間 午前10時～午後4時)
※いずれも土・日・祝・祭日休み



各派・教団・短信

本門法華宗

◆平成十六年七月十三日に開催された大本山妙蓮寺責任役員会において新貫首として高邊日援現下(久成寺住職)が選任され、八月二十六日に内晋山式を奉修し、石崎光教執事長(玉龍院住職)以下新役職が委嘱され就任した。

◆去る十一月十二日、大本山妙蓮寺に於いて、本門法華宗管長高邊日援現下の妙蓮寺第十四世の晋山式法要が門末各寺院・京都日蓮聖人門下連合会各聖御臨席のもと、自坊大阪久成寺檀信徒参集を得て奉修された。併せて御開山会並歴代年忌法要も厳修された。式典後会場を京都プライオンホテルに移動し、盛大な祝賀の宴が開催された。

◆本門法華宗学院並びに教学部では平成十六年九月九日、十日に第百一回教學講習会、十一月二十九、三十日に第百十二回教學講習会が大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催された。本門法華宗学院では立正大学北川前肇先生講述「四帖抄に聞く(一)」が刊行された。(木村光正)

法華宗本門流

◆十一月十三日、大本山光長寺貫首川口日唱現下が第百二十六代法華宗管長に就任、同日推戴式が同本山において奉修された。併せて門下連合会顧問にも同日付をもって就任された。

◆第十八回法華宗教學研究発表大会が平成十七年二月十六日新大阪「メルパルク」を会場に開催される。

日蓮宗

◆岩間湛正宗務総長を団長とする第十一次日蓮宗中国訪問使節団を結成、平成十六年六月二十二日から二十九日まで、北京市中国仏教協会への表敬訪問と、鳩摩羅什三蔵法師が日蓮宗徒の經典「妙法蓮華經」を翻訳した西安市草堂寺参拝・天台大師智顛開創による浙江省天台山国清寺参拝を三本柱に各地を訪問した。

◆平成十六年度第一回中央檀信徒研修道場を七月七日から九日まで、千葉県天津小湊町の清澄寺研修会館で開いた。清澄での開催は初となったが、全国十三管区から十九人(うち女性九人)が参加した。

◆平成十六年度日蓮宗国際青少年リーダー交流研修を七月二十二日から二十四日までの二泊三日で開催した。この研修にはアメリカ・韓国・マレーシア・インドネシアの国籍を持つ、十二歳から三十一歳までの男女二十一人が集い、共同生活の中で身心を研鑽し、日蓮聖人の教え、信仰の大切さを学ぶと共に仲間との交流を深めあつた。

◆日蓮宗米別院(アメリカ・ロサンゼルス)金井勝海(主任)は平成十六年で開創九十周年を迎え、八月二十九日に岩間湛正宗務総長導師のもと慶讃大法要が営まれた。当日はアメリカ各地のみならず、カナダ・イギリスからも開教師と信徒が参集して共に慶事を喜び合い、日本からも多くの関係者が出席し、永年の歴史と法功に対し、感謝と祝意を表した。(大澤宏明)

日蓮本宗

◆七月一日、「日蓮本宗宗憲、規則、規程」および「本山要法寺規則」を施行。二日、宗会議員選挙券を令。六日、第七十九回臨時宗会・門

末会再開。八日、第二回法要委員会開催。十二日、文化財防火運動、本山を会場に山内、町内が参加し消火訓練。二十三日、夏期研修会運営委員会開催。十八日、夏期研修会参加者集合、オリエンテーション。二十四日、二十六日、第三十九回夏期研修会開催。

◆八月十六日、本山孟蘭盆会法要奉修。十八日、第三回法要委員会開催。

◆九月一日、宗務所長会開催。十六日、宗・山責任役員会、本山総代会合同会議開催。十六日、第八十回臨時宗会開催。二十三日、本年秋季彼岸会法要奉修。二十九日、新・旧当局引継ぎ。三十日、京都門連御会式スタッフ会議(本隆寺)。岩崎執事、野津主事出席。

◆十月二日、京都門連御会式法要万灯行列(円山公園、本能寺)。岩崎執事、野津主事出席。七日、全国日蓮聖人門下連合会東京理事会。桐生総長出席。十二日、御大会式連夜法要奉修。第四回開創七〇〇年法要委員会開催。十三日、要法護持会本部役員選出会、本部研修会開催。高祖日蓮大聖人第七百二十三年御正當御報恩御大会式法要奉修。御歴代先師第十二祖日在上人第四百五十五遠忌併修。十四日、御大会式御廟参。十七日、京都二条流茶会席開催、本山会場提供。

◆十一月三日、十三日、桐生総長、島根寺院御会式特派布教師として出席。十二日、京都門連本山妙蓮寺普山式に日有現下、岩崎執事出席。十五日、第三祖日在上人第六七二年御正當法要(目師会)奉修(岐阜日蓮庵・御霊蹟前)。岐阜本隆寺参拝。二十五日、全国日蓮聖人門下連合会京都理事会(本山本隆寺)。岩崎執事出席。

国柱会

◆全国各地方連合局において、講習会、本化儀典研修会、婦人の集いを開催。都内をはじめ日本全国日蓮主義街頭演説活動実施。毎月第三日曜日、妙宗大靈廟例月供養会厳修。毎週一回日蓮聖人御遺文輪読会開

催。毎月一回「日蓮聖人の教義」勉強会開催。

◆七月八日、顕正会慶讃法要厳修。十六日、宣正会慶讃法要厳修。十日、田中暉兵衛主以下、明治神宮参拝。明治天皇祭厳修。

◆八月四日、本会共催にて靖国問題シンポジウム(文京シビックホール)開催。五日、少年少女夏期学校開催(郡山自然の家にて七日まで)。八日、静岡地方日蓮主義街頭宣伝実施。

◆九月二日、七日、北陸・北海道・奥羽地方日蓮主義講習会及び街頭演説実施。十二日、龍口法難会慶讃法要厳修。二十五日、式士任用試験実施。二十八日、田中賽主、インド大菩提会の要請によりスリランカへ。

◆十月二日、三日、第四十四回身延大祖廟輪番給仕国柱会奉仕団実施。十日、佐渡法難会慶讃法要厳修。十二日、日蓮主義池上大宣伝実施。十三日、鶴林会報恩法要厳修。

◆十一月三日、本会創業百二十年記念大会開催(第一部明治神宮参拝、第二部慶讃大法要厳修、第三部祝賀午餐会)。十一日、小松原法難会慶讃法要厳修。十七日、田中智学先生第六十六回忌報恩大法要厳修。二十日、全国定例協議会開催。

◆八月二十五日、本山妙蓮寺に於いて、「妙塔大学林(大学林長・山本学人師)が開講された。本年は、本科(一年生)三名、研修科(二年生)五名、研究科(三年生)八名、聴講生一名のあわせて十七名の受講者が参加し、行学二道の修練に励んだ。

顕本法華宗

◆八月二十五日、本山妙蓮寺に於いて、「妙塔大学林(大学林長・山本学人師)が開講された。本年は、本科(一年生)三名、研修科(二年生)五名、研究科(三年生)八名、聴講生一名のあわせて十七名の受講者が参加し、行学二道の修練に励んだ。

◆九月九日、十日、恒例の東部連合会主催の研修親睦旅行が行われた。本年度は会津の別格山妙法寺を主会場に、東山温泉で懇親会が行われた。参加者三十二名、益々の懇親を深めた。

◆十月十二日、総本山妙蓮寺に於いて、本年度に就任した新任職五名の「奉誓式」が挙行された。それぞれ檀家総代随伴の元、本山の御宝前に於いて新任職の誓いを立てた。

寺に於いて、「全国教区布教師講習会」が開催された。初めに布教総監山本学人台下より「唱題修行の実践について」のご講義を賜り、次に各布教師の講演演習が行われた。その後将来の布教に対する意見交換が行われ、活発な議論が交わされた。

◆十月十九日、総本山妙蓮寺に於いて、「西部僧員講習会」、十月二十五日、東京品川の天妙園寺において「東部僧員講習会」が開催された。講師に第三教区千葉市本行寺住職の朝倉俊幸師、第二教区茨城県波崎町長照寺住職の吉本栄昶師を講師に迎え、「新宗教の実態と対策」を講師自身の体験を交えて講演頂いた。

◆十一月二十七日、二十八日の両日、第一教区東京品川の天妙園寺において顕本法華宗・法華宗陣門流・法華宗真門流からなる「三宗統合学院」が開講された。妙塔学林教授・林孝瑞師を講師に「仏教の死生観」について講演頂いた。当学院は前期・後期の二年二回開講している。本宗では、教学資金給付並びに貸与の学生に受講が義務づけられているが、一般僧員の受講も受け付けている。

◆十二月九日、第二十五回日什門流懇話会が、広島市本照寺(住職寛義章師)を会場に開催された。講師に津山市本蓮寺住職、藤本俊昭師をお招きし、「児玉日谷上人と津山顕本講」についてお話し頂いた。その後懇親会を宮島口の「安芸グランドホテル」に移し、参加者四十三名が親交を深めた。(多門顕正)

◆各種講習会開催。青年僧、学生僧を対象とした教学講習会が、八月二十三日、二十九日まで総本山本隆寺にて開催された。

◆八月二十四日、三十日北海道支学生僧を講師に招き、講題は「陣門教学における信行論」であった。

◆十月五日より秋季学林開講、三十数名の学林生が受講。

派布教学林生による朗読劇、檀信徒による模擬店もあって賑いのうちに信心増進に励んだ。

◆十月十三日、総本山本隆寺にて、初転法輪奉修、本年は二名が初転法輪に臨んだ。

◆十一月十三日、十四日総本山本隆寺において華道部東山未生流華展が開催された。客殿、方丈会館を会場として日頃の精進を披露、多くの来場者で賑わった。

◆十二月六日、七日平成十六年度定期宗会開催。内局提案の議案を慎重審議の上、可決された。

◆元旦から八日まで国持会・法華八講奉修。(堀内浩善)

◆六月十二日、十日、法華宗(真門流)の三宗による、三宗統合協議会・統合学院が開催された。講師は、法華宗(真門流)宗学研究所・学林講師西岡完孝先生で、「三種教相と五時八教」の講題で講義が行われた。両日とも三宗より多数の学生が集い、先生の話に耳を傾けていた。

◆七月十三日の新潟豪雨に於いて、総本山本成寺並びに塔頭、及び多くの新潟教区寺院が被災した。このことに対し、宗務院を窓口にして宗内全寺院に対し救援金の勸募を呼びかけた。(今井満良)

ぶんぶん

書店のぞくと仏教関連の本の多さに驚く。その中にも目にとまったのが上田紀行氏の「がんばれ仏教」である。本書はお寺や僧侶としての活動の可能性を示唆し、仏教者の生き方とは何かと問う指南書と見る事も出来る。見方も千差万別、賛否両論があるかもしれないが現代仏教に対する警鐘として受けとめ、今、何が出来るのかを考えさせられる一冊である。

日蓮聖人門下連合会

●目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

●事業
本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。

1. 祖廟護持の組織強化
2. 教育事業の提携
3. 布教の連合強化
4. 懇談会・研究会・講演会等の開催
5. 各種出版物の刊行
6. 海外布教の提携及び交流
7. 対外的な各種の運動
8. その他

●加盟団体
日蓮宗 法華宗本門流
顕本法華宗 法華宗陣門流
本門佛立宗 日蓮本宗
法華宗真門流 本門法華宗
国柱会 日本山妙法寺
京都門下連合会